

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 放課後児童支援員には、たくさんの仕事があることを学びました。今年度から放課後児童クラブに勤務している私にとって、何もかもが初めてのことで、中でも子どもたちへの声かけがとても難しく、日々勉強しているところです。優劣を付けず、平等に子どもたちと関わり、少しずつ信頼関係を築いていけるように、他の職員を見習いながら、励んでいきたいと思いました。
- ◆ 適切な育成支援とはどういうことかを学ぶ機会になりました。子どもに対しても保護者に対しても日々の関わり、言葉遣いで信頼関係を築いていけることを実感しました。また、いじめ、喧嘩などのトラブルの対処について、職員がそれまでの経験からひとりよがりの対応をすることなく、職員の共通理解に基づいて、解決に向かうようにするためのスキルが必要であることを学びました。日々スキルアップを図っていきたいです。
- ◆ 支援員の仕事内容は私が毎日気を付けていた内容とほとんど一致していたので、これまでの対応に間違いはなかったと再確認できました。特に印象に残っているのは、子どもにかける言葉でした。「やめなさい」「だめ」といった威嚇言葉をこれまで何度使ったことか。使っても使ってもその場が収まらない時もあり、子どもや保護者の気持ちに寄り添って言葉かけをするという意識が大事であると学びました。
- ◆ 子ども同士のトラブルへの介入をグループワークを通して学ぶことができ、勉強になりました。ただ謝るだけのやりとりになってしまうように、まずは双方の話をよく聞いて、子どもの気持ちに寄り添うことやどうしたらよいかを子どもたち自身で考えられるように仲立ちしていくことが大切であると学びました。子どもたちが、主体的に生活する姿を大切に、一人一人の気持ちを尊重した言葉かけをするように心がけていきたいと思いました。
- ◆ 放課後児童支援員の仕事を一つ一つ再確認しながら学ぶことができました。私自身は「遊ぶ」ことが主流で「支援」という点では、まだまだできていないと思っています。子どもとの関わり方で、つい上から目線で話してしまい、傷つけてしまったことはないかと振り返るきっかけになりました。適切な声かけにより信頼関係を築き、支援していきたいです。